リーダーは忙しくっちゃダメ

保育園から小学校・中学校・高校・大学まで、ずっと一つ上の先輩がいます。

ちょっと偏固ですが、先見性、そして行動力があり、頼りになる先輩です。

ある時（20年余り前）、役所の廊下でバッタリ、その先輩に出会いました。手持ち無沙汰な様子に、つい、「先輩、暇そうですね。」と声を掛けました。先輩は、その時、本課の課長、しかも主管課の課長で、『多忙』のはずでした。

先輩は、ゆとりさえ感じる笑みを浮かべ、「お前のー、（組織の）トップは、忙しかったらダメながや。」「忙しかったら、全体が見えんやろう。全体が見えんと、今、どうなっとるがか、何が問題ながか、分からんやろう。」と……。

それまで、「リーダーは忙しいもの、率先して仕事をする立場にあるもの」と思い込んでいた自分にとって、この先輩の一言は、「自分のリーダー観」を根底から覆す衝撃的なものでした。

それ以来、リーダーの立場になって、自分の役割の認識に努め、できる限り、他の職員ができること、他の職員の仕事の縄張りにまで口や手を出さないように心掛けています。時には、時間がかかり、歯がゆく感じることがあっても、少しゆとりをもって見守れば、職員の意欲も向上するし、確かに自分自身に余裕ができ、全体を見ることができるようになった気がします。

学校の外からの情報の収集に努めて自分の職責を見直し、対策を練り、組織の方向付けを行う。自分はフリーな立場で、組織の手の足りないところを手伝う。更に、職員の職能成長を助けて組織の力を最大限に発揮することに努める……など。

今も、職員の仕事ぶりをそれとなく見守りながら、自分の出番を待っています。

かの先輩は、今も先輩。校区の自治会活動で活躍中です。いまだに頭が上がりません。